

# Books for Japan Editing

異人さんが見たニッポン



## 『日本奥地紀行』

イザベラ・バード (著) 高梨健吉 (訳)  
平凡社 2000

文明開化の波に飲み込まれゆく日本の、失われた奥地の営み。その風景を率直に綴る英国人女性による紀行文。マージナルな日本の姿がここに。



## 『新編 日本の面影』 『新編 日本の面影 II』

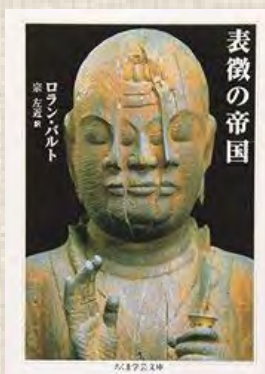
ラフカディオ・ハーン (著) 池田雅之 (訳)  
KADOKAWA 2000・2015

美しい日本の愛すべき人々と風物を繊細な眼差しで描いたハーンの代表作。失われゆく日本の姿を詩情豊かに描く、想いの込もった一冊。

## 『表徴の帝国』

ロラン・バルト (著) 宗左近 (訳)  
筑摩書房 1996

天ぶら、庭、歌舞伎の女形からパチンコ……。日本に対する常識と驚きを「零度」に解体して読み解く。記号学者が解析した詩的の日本。



## 『日本力』

松岡正剛、エバレット・ブラウン (著) パルコ出版 2010

異邦人の目に映る日本から、忘れられた日本を見つめ直すきっかけが開かれる。日本を内から語るだけにあらず。複数の目で語ることに日本力が発揮されるのだ。



## 『WA デザインの源流と形相』

ロッセッラ・メネガッツォ、ステファニア・ビョッティ (著)  
美術出版社 2017

日本の伝統工芸や民芸に宿る美しさの影響源を、木、紙、鉄など素材ごとに新旧のオブジェを並べて見比べる。日本のデザインの真髄が浮き彫りにされる。

## 『YOKAI NO SHIMA』

日本の祝祭一万物に宿る神々の仮装  
シャルル・フレジェ (著) 青幻舎 2016

フランス人写真家の眼に映る日本の祭りや年中行事に出現する仮面や装束からは、力強く奇怪で美しい、個性豊かな日本が溢れている。

『風土の日本—自然と文化の通感』 オギュスタン・ベルク (著)  
篠田勝英 (訳) 筑摩書房 1992

『ビゴーが見た明治ニッポン』 清水勲 (著) 講談社 2006

『バーナード・リーチ日本絵日記』 バーナード・リーチ (著)  
柳宗悦、水尾比呂志 (訳) 講談社 2002

『美しき日本の残像』 アレックス・カー (著) 朝日新聞出版 2000

『果てなく美しい日本』 ドナルド・キーン (著) 足立康 (訳)  
講談社 2002

『「縮み」志向の日本人』 李御寧 (著) 講談社 2007

『菊と刀 日本文化の型』 ルース・ベネディクト (著)  
長谷川松治 (訳) 講談社 2005

『菊とポケモン—グローバル化する日本の文化力』  
アン・アリスン (著) 実川元子 (訳) 新潮社 2010

『Wabi-Sabi わびさびを読み解く for Artists, Designers, Poets & Philosophers』 レナード・コーレン (著)  
内藤ゆき子 (訳) ビー・エヌ・エヌ新社 2014

『にほんとなニッポン—読みとばし日本文化譜 Seigow Remix』  
松岡正剛 (著) 工作舎 2014

# Books for Japan Editing

## 日本のイメージーション



『無縁・公界・楽』  
—日本中世の自由と平和—  
網野善彦（著）平凡社 1996

世俗の縁や法からはぐれて、戦の危険からも守られた平和な暮らしを送る人たちがいた。貧・飢・賤と結びつきながらも無縁・公界・楽と呼ばれる場は展開していたのだ。



『擬 MODOKI』  
—「世」あるいは別様の可能性—  
松岡正剛（著）春秋社 2017

「世」はすべて「擬」でできている。能、歌舞伎、茶の湯、俳諧から現代のサブカルチャーまで、日本の表象文化は「ほんと」と「つもり」を擬き続ける。日本の面影を追う一冊。



『ヤンキー人類学』  
—突破者たちの「アート」と表現—  
網の津ミュージアム（監修）  
フィルムアート社 2014

リーゼントや変形学生服、特攻服に改造車、デコトラなど、悪趣味さながらの過剰な装飾に代表されるヤンキー文化には、日本の美意識が染み付いていた。



『21世紀の民俗学』  
畑中章宏（著）KADOKAWA 2017

自撮り棒、アニメ聖地巡礼、河童の選挙権……。未来のような過去は、あまりに古くて新しい。最新テクノロジーや流行に民俗学からアプローチする、新時代のリアル！



『The Folk』  
西村裕介（著）リトルモアブックス 2015

日本各地に伝承される郷土芸能の美しい装いと力強い舞いに魅せられた写真家は、日本各地の祭りを撮り続けた。その写真たちは、目もくらむほどの異形で土着な輝きに満ちている。

『日本の祭』 柳田国男（著）角川学芸出版 2013

『日本の民俗—祭りと芸能』 芳賀日出男（著）KADOKAWA 2014

『ニッポンのマツリズム—盆踊り・祭りと出会う旅』  
大石始（著）ケイコ・K・オオイン（写真）  
アルテスパブリッシング 2016

『境界の発生』 赤坂憲雄（著）講談社 2002

『境界の中世 象徴の中世』 黒田日出男（著）  
東京大学出版会 1986

『異人論—民俗社会の心性』 小松和彦（著）筑摩書房 1995

『河原者ノススメ—死穢と修羅の記憶』 篠田正浩（著）  
幻戯書房 2009

『フラジャイル—弱さからの出発』 松岡正剛（著）筑摩書房 2005

『風姿花伝・三道 現代語訳付き』 世阿弥（著）竹本幹夫（訳注）  
角川学芸出版 2009

『能』 高橋睦郎（著）ビエ・ブックス 2010

『かぶき発生史論集』 郡司正勝（著）鳥越文蔵（編）岩波書店 2002

『大いなる小屋—江戸歌舞伎の祝祭空間』 服部幸雄（著）  
講談社 2012

『間道—見世物とテキヤの領域』 坂入尚文（著）新宿書房 2006

『見世物研究』 朝倉無声（著）筑摩書房 2002

『見世物小屋の文化誌』  
鶴飼正樹、北村皆雄、上島敏昭（編著）新宿書房 1999

『ゴジラとナウシカ—海の彼方より訪れしものたち』  
赤坂憲雄（著）イースト・プレス 2014

『ラーメンと愛国』 速水健朗（著）講談社 2011

『ヤンキー文化論序説』 五十嵐太郎（編著）  
都築響一ほか（著）河出書房新社 2009

『世界が土曜の夜の夢なら—ヤンキーと精神分析』  
斎藤環（著）角川書店 2012

『族の系譜学—ユース・サブカルチャーの戦後史』  
難波功士（著）青弓社 2007

『ROADSIDE JAPAN—珍日本紀行 東日本編』

『ROADSIDE JAPAN—珍日本紀行 西日本編』  
都築響一（著）筑摩書房 2000

『「かわいい」論』 四方田犬彦（著）筑摩書房 2006

『世界カワイイ革命』  
—なぜ彼女たちは「日本人になりたい」と叫ぶのか—  
櫻井孝昌（著）PHP研究所 2009

『ギャルと「僕ら」の20年史』  
—女子高生雑誌Cawaii!の誕生と終焉—  
長谷川晶一（著）亜紀書房 2015

『カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係』  
横幹（知の統合）シリーズ編集委員会（編）東京電機大学出版局 2016

『日本の想像力の未来—クール・ジャパノロジーの可能性』  
東浩紀（編）NHK出版 2010

『食品サンプルの誕生』 野瀬泰申（著）筑摩書房 2017

『食品サンプル百貨店』 竹村真奈、小西七重（編著）  
キャンビット 2016

# Books for Japan Editing

忘れられた日本がここに

## 『逝きし世の面影』

渡辺京二 (著)  
平凡社 2005

開国以前の在りし日のこの国の文明は、異邦人の目には実に豊かに映った。外国人の手記を手掛かりに、近代日本が失ってきたものの意味を根底から問う。



## 『日本流』

松岡正剛 (著) 筑摩書房 2009

本来を見失い将来が見通せない日本を、童謡「歌を忘れたカナリヤ」に託してはじまる異色の日本論。見立て、数寄、趣向、面影、うつろひなど、多様で一途な日本の方法を説く。



## 『手仕事の日本』

柳宗悦 (著) 講談社 2015

日本各地で名もなき工人がつくる民衆の手仕事の「用の美」を訪ね歩いた柳宗悦。日本人の暮らしに欠かせない生活道具の美を、自らの眼で見極めた、「民藝運動」創始者の記録。



## 『茶の本』

岡倉天心 (著) ソートン不破直子 (訳) 春風社 2009

茶道とは、精神を修養し、交際の礼法を極めるものである。日常の事実における美の崇拜という霊性は、西洋文明に対する警鐘として東洋と西洋の懸け橋となる。



## 『拈華』

緒方慎一郎、川本論 (著) 青幻舎 2017

日本の美を革新し続ける緒方慎一郎がプラントアーティストと挑んだ草木花のしつらえ。生け花でもフラワーアレンジメントでもない「現代の花」が咲く。

『日本を知る105章』 コロナ・ブックス編集部 (編) 平凡社 2001

『忘れられた日本人』 宮本常一 (著) 岩波書店 1984

『日本という方法—おもかげ・うつろいの文化』 松岡正剛 (著) NHK出版 2016

『日本数寄』 松岡正剛 (著) 筑摩書房 2007

『花鳥風月の科学』 松岡正剛 (著) 中央公論新社 2004

『美しいもの 白洲正子エッセイ集<美術>』 白洲正子 (著) 青柳恵介 (編) KADOKAWA 2015

『いのちとかたち—日本美の源を探る』 山本健吉 (著) 角川書店 1997

『日本美を哲学する—あはれ・幽玄・さび・いき』 田中久文 (著) 青土社 2013

『日本の五感—小堀遠州の美意識に学ぶ』 小堀宗実 (著) KADOKAWA 2016

『数寄語り』 潮田洋一郎 (著) KADOKAWA 2016

『茶と美』 柳宗悦 (著) 講談社 2000

『「いき」の構造 他二篇』 九鬼周造 (著) 岩波書店 1979

『陰翳礼讃』 谷崎潤一郎 (著) 中央公論新社 1995

『手仕事の日本』 柳宗悦 (著) 講談社 2015

『民藝の日本 柳宗悦と「手仕事の日本」を旅する』 日本民藝館 (監修) 筑摩書房 2017

『日本再発見—芸術風土記』 岡本太郎 (著) KADOKAWA 2015

『神秘日本』 岡本太郎 (著) KADOKAWA 2015

『Katachi 日本のかたち—Japanese Sacred Geometry 新装版』 岩宮武二 (写真) 高岡一弥 (アートディレクション) パイインターナショナル 2011

『MADE IN JAPAN—素のものたち』 内田綱一 (著) アノニマ・スタジオ 2011

『包む—日本の伝統パッケージ』 目黒区美術館 (編) ビー・エヌ・エヌ新社 2011

『MIYAKE ISSEY展—三宅一生の仕事』 三宅一生、青木保 (監修) 求龍堂 2016

『デザイン物産展ニッポン』 ナガオカケンメイ (企画・構成) 日本デザインコミッティー (制作) 美術出版社 2008

『もうひとつのデザイン—ナガオカケンメイの仕事 (d books)』 ナガオカケンメイ (著) D&DEPARTMENT PROJECT 2018

『作る力—creators for everyday life』

『繋ぐ力—ideas for next Japan』 生活工芸プロジェクト (著) リトル・モア 2011・2012

『工芸とデザインの境目』 深澤直人 (監修) 六耀社 2016

『「世界一の金属の町」 燕三条の刃物と金物—暮らしの道具135選』 中川政七商店 (編) 平凡社 2016